

小ギク産地の振興

要約

- ・平群町の小ギク産地では物日の安定出荷、高品質化が課題となっていた。
- ・電照栽培の拡大、低コスト化の試験、病害虫防除の徹底指導などを行い、生産安定を図った。
- ・電照栽培の重要性が認知され、栽培面積は前年より26a増加し、物日安定出荷が進んだ。

現状(背景)と課題

- ・天候に左右され、盆出荷品種の開花日が不安定
- ・物日出荷量が不足
- ・物日安定出荷のための電照栽培の導入促進
- ・H26電照栽培面積 120a



目標

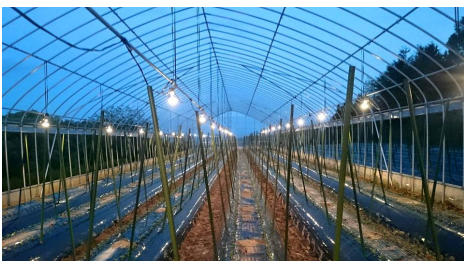
- ・電照栽培面積 対H26 +5a

活動内容 (対象：西和花卉部会)

- ・盆電照栽培について講習会で周知および現地指導
- ・電照栽培導入生産者圃場において電照による小菊の花芽発達抑制状況調査
- ・花芽抑制調査の結果を踏まえた電照消灯時期の指導
- ・電照消灯以降の生育調査および収穫調査
- ・今後の大規模な電照栽培導入に向けた省電力型光源 (LED) の電照効果についての現地調査
- ・従来は盆時期に自然開花していたが、近年同時期に開花していない品種群の開花時期調査
- ・以上の調査、指導結果を元に次年度以降の補助事業立案と必要データ (報告書) の作成

成果

- ・電照栽培の普及により、物日安定出荷が進んだ。
- ・盆自然開花品種の開花期が前進したことにより電照の重要性が生産者に周知できた。
- ・電照面積146a (対H26年 +26a)
- ・H28年度より省電力型光源 (LED) を利用した電照栽培の導入に対する県単独補助事業が開始することが決まり、電照栽培導入の機運が高まった。



電照栽培圃場



盆自然開花品種の生育調査



講習会における情報提供・指導

北部農林振興事務所農林普及課
担当：農産物ブランド推進第一係
角川由加
(リーディング品目支援事業)

普及活動のポイント

- 研究成果を基に現地調査を細密に行うことによってデータの信頼性を高め、生産者に提示、指導した。
- 農業研究開発センターと連携し、新規技術の現地実証を行うことにより支援を効率的に行った。
- 事業利用について、県担当課、JAと連携し、ニーズと現地の実態に即した補助事業を立案した。

対象の変化

- 従来からの啓発活動に加えて自然開花期が2年連続での前進したこと、その状況下でも電照栽培では適期に出荷できたことにより電照技術の重要性が生産者に周知でき、取り組み意欲が高まった。
- 電照新規導入に際し補助事業が利用できることによりスムーズな導入促進が期待できる。

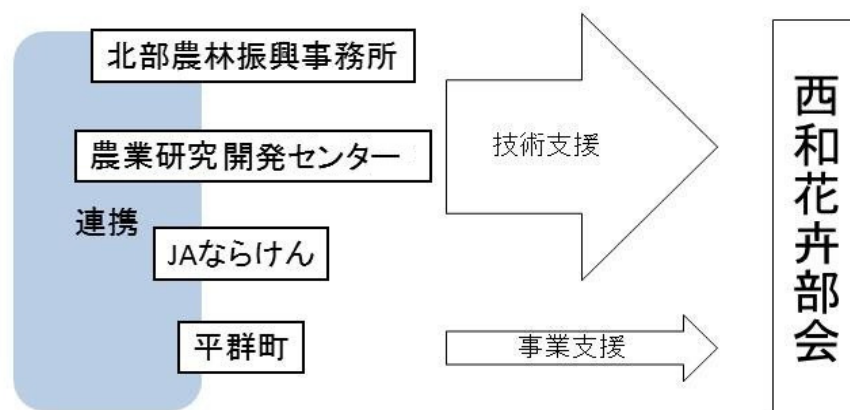
対象者からのコメント

- 開花時期の制御技術(電照)に対する生産者の要望は高く、出荷組織全体のニーズに合致した内容。

これからの活動ビジョン

- 本課題には普及活動重点課題として継続中であるため、支援内容についても継続の予定。
- 電照の導入以外にも集出荷場利用による秀品率の向上、白さび病対策など多くの課題があるため今後も支援活動を計画的に行う。

活動体制



用語解説

物日

祝い事や祭りなどが行われる日。しばしば特定の商品の需要増を伴う。平群の小ギクでは、盆と秋の彼岸がこれにあたる。とくに8月の盆時期に小ギクの開花時期を合わせて安定的に出荷することが重要となる。